

ソチ 2014 オリンピック教育プログラム概要

1. はじめに

ソチ 2014 組織委員会オフィシャルサイト英語版(<http://www.sochi2014.com/en/>)によれば、ソチ 2014 に関わるオリンピック教育は、以下の 4 領域に区分される。

- 1) ソチ 2014 のオリンピック教育システムの実践
- 2) ロシア国際オリンピック大学 (RIOU) とのパートナーシップ
- 3) ロシア連邦の人々におけるパラリンピックやパラリンピックバリューに関する意識を高めるためのプログラム
- 4) 青少年プログラム

そして、2008 年からの 6 年間で 3 期に分けて、それぞれを以下の通りオリンピック教育の発展段階としている。

- 1) 北京 2008—バンクーバー 2010 : 教育方法論の開発
- 2) バンクーバー 2010—ロンドン 2012 : ソチとクラスノダール地域における教材作成および試行
- 3) ロンドン 2012—ソチ 2014 : ロシア連邦各地域における教材の全体的な統合

これらのアウトラインを示した上で、同サイトでは次の 7 項目 ("Paralympic Awareness Program"、" Download"、" Youth programs"、" Sochi 2014 ABC"、"Education programs"、" Partners' educational programs"、"Photo")に分けて、具体的な教育プログラムを紹介している。以下に、特徴的な事業を整理する。

2. パラリンピック意識向上プログラム "Paralympic Awareness Program"

同サイト(<http://www.sochi2014.com/en/games/education/information/>)は、社会的な研究によってロシアにおけるパラリンピックに対する理解度の低さが指摘されたことを背景に、今大会を経てバリアフリー環境の整備に加え、障がいのある人々に対する固定観念を克服する質的な変化を試みるとしている。

2011 年に組織委員会が立ち上げた「ロシアの人々におけるパラリンピックとパラリンピックバリューに関する意識向上プログラム」は、障がいのある人々に対する正しい態度を形成することを意図し、パラリンピック・ムーブメントの歴史、哲学、価値について情報を提供している。このプログラムの主な目的は、国内の 1300 万人以上の障がい者に対するロシア社会の視線を変えることにある。具体的な施策は以下の通りである。

- 1) アクセシビリティマップ

2012 年 10 月 23 日、パラリンピックの開会まで 500 日と迫った日に、「アクセシビリティマップ」が公開された。これは、ロシアの各クラブがパラリンピック種目やそのムーブメントに参画するためのプラットフォームとして提供されている。また、このマップは国内 16 地域のボランティアセンターや、州プログラム「アクセシビリティ環境」に含まれる 42 の地域に支えられている。そして、関係する情報を提供したい人は、誰でもそのプラットフォームを活用することができる。

2) 私たちのチャンピオン(Our Champion)

このプロジェクトは、全国のパラリンピックのアスリートの成功を広く社会に親しませることを目的としている。2011 年 4 月に開始され、ウエイトリフティング、スキークロスカントリー、バイアスロン、アルペンスキー等のアスリートが取り上げられている。

3) パラリンピック教育(Paralympic Education)

パラリンピック教育の目的は、ロシア社会、とくに障がいのある人々に対し、パラリンピックのスポーツがどれだけ生活を変化させ、豊かにするかを示すことにある。パラリンピック・ムーブメントの哲学や価値を普及し、障がいのある人々を迎え入れる社会の雰囲気育てることを念頭に、国内で様々な実践が行われている。

3. ダウンロード” Download”

ウェブサイト上に、動画(3 本の Olympic Lesson と、1 本の Paralympic Lesson)とロシア国際オリンピック大学に関する資料、オリンピック ABC という辞書式のオリンピック教育教材が用意されている。なお、動画の言語はロシア語(字幕:英語)である。

4. 青少年プログラム” Youth programs”

2011 年 5 月、IOC 会長(当時):ジャック・ロゲ氏を委員長とするローザンヌの国際オリンピック休戦財団の会議において、ソチ 2014 の組織委員会は若い世代と協同し、彼ら/彼女らの注目を平和や寛容、参加といった重要な価値に向けさせることを企図した。

具体的には、組織委員会が「Generations for Peace」という団体と連携し、平和、調和、多様な文化や地域に対する尊敬の理念を普及するというものである。2010 年、2011 年と 2 回の国際キャンプを実施し、ロシア、アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ボスニアヘルツェゴビナ、マケドニア、ジョージア、キルギスタン、セルビア、タジキスタン、トルクメニスタン、ウクライナの各国から 109 名の代表者を得た。

国際的なキャンプの一方で、ロシア国内クラスノダール地域におけるサマーキャンプも行われた。全ロシアからの若い世代が、オリンピックやパラリンピックの歴史、哲学やバリューに関する協同プログラムに参加した。そして、パラリンピック期間中には、現地でのユースキャンプが実施された。

5. ”Sochi 2014 ABC”

ソチ 2014ABC は、オリンピック・ムーブメントに関する歴史を紹介する教育プロジェクトである。膨大なキーワードがアルファベット順に並んでおり、Edutainment=(Education と

Entertainment の造語) のコンセプトのもとに、辞書式の教材となっている。

6. 教育プログラム“Education programs”

ソチ 2014 組織委員会は、オリンピック・ムーブメント史上初めての試みとして、オリンピック教育の系統立てられた概念を示している。それらは「普通教育: popular」、「専門教育: professional」、「大学教育: academic」に分類され、以下の通り整理されている。

(1) 普通教育: Popular

普通教育では、オリンピックとパラリンピック・ムーブメントに関する歴史や哲学、そして何よりそれらのバリューについて扱う。パートナー(スベル銀行、ロシア鉄道、Rosneft、Ingosstrakh)とともに、ソチ 2014 の成功のための教育的なワークショップが行われた。

Sochi 2014 Olympic Lessons (3.ダウンロード教材を参照)は、ロシアの学校において正課、課外を問わず活用されている。教員だけでなく、ボランティアやスタッフ、パートナー会社やソチ 2014 アンバサダー、オリンピックチャンピオン、スポーツディレクターやアスリート等にも使用されている。

2010 年に、「Olympic Induction」というマルチメディアが発行された。著名なアスリートや世界の指導者がオリンピック、パラリンピック・ムーブメントに関する紹介を行うこの映像は、2010 年 2 月のバンクーバー五輪の際には 120,000 人が目にしたとされる。

オリンピック競技会開催の 1000 日前には、組織委員会が「1,000 Olympic Lessons」というキャンペーンを開始した。ボランティアセンターからの学生やトレーナーが、各学校でオリンピックに関する授業を展開した。とくに、モスクワ経済産業大学の学生は、ロシアの各地方で計 4 万人以上の生徒・児童にレッスンを行っている。なお、本レッスンの中には、特別講座としてロシアオリンピック委員会会長やオリンピック競技会で複数回金メダルを獲得したアスリートが登壇したこともあった。

2011 年 9 月 1 日、「ソチ 2014 レガシー」を見据えた 1500 以上の授業がロシア内 30 の地域において 5 万人以上の生徒を対象に行われた。講師として、26 のボランティアセンターの学生、組織委員会スタッフ、パートナーが担い、彼らはすべて 8 月にモスクワやソチにおいて国際オリンピック大学の協力を得て開かれた研修を受けた。同授業の目的は、ソチ 2014 の影響、レガシー(インフラ、ボランティア、サービス、環境、バリアフリー等)について学校の生徒・児童に知らせることであった。

ロンドンオリンピックが終わった 2012 年 9 月 1 日には、組織委員会とロシアオリンピック委員会、そして競技会とオリンピック教育プログラムの双方のパートナーとなっている「Rostelecom」という通信会社の共催で、「London2012—Sochi2014」というレッスンを実施した。これは学校と組織委員会をつなげることを主眼に、生徒・児童をソチ 2014 組織委員会のモスクワ、ソチ、クラスノダールのオフィスに招いた。

また、地域において、オリンピックアスリートが学校を訪問している。彼らはオリンピック競技会を紹介し、個人的な経験を話して生徒を鼓舞した。

2012 年 10 月 5 日に終わった「オリンピック知識マラソン(The Marathon of Olympic Knowledge)」は、100,000 以上のオリンピックレッスンが計 400 万人以上の生徒児童に展開され、100,000 人以上の先生が関わった。各教員は、ロシアの一般的な教員としてだけでなく、組織委員会のパートナーとしての役割が求められた。

(2) 専門教育: Professional

専門教育では、スポーツマネジメントの世界的な専門家養成に焦点を当てる。彼/彼女らの知識は、オリンピックやパラリンピックでの経験を、スポーツ産業にユニークな形で活用する。本項については、のちの視察報告(ロシア国際オリンピック大学)に詳述する。

(3) 教師教育: Academic

ソチ 2014 では教育機関や学校、大学における各プログラムの発展に焦点を当てている。オリンピックやパラリンピックに関する体育、歴史、地理だけでなく、高等教育機関における教育モジュールの発展につながるとする。11 個の教育パッケージ(文学、歴史、地理、芸術、音楽、外国語等)がすでに試行され、学校における実施の準備が整っている。

2010 年 10 月には、学校の先生を対象とした「Sochi 2014 Teacher」コンテストが開催された。翌年には、大学教員を交えて同コンテストが、「Activity – Philosophy – Profession», 「My Choice», 「Journey around the countries participating in the Olympic Games」 and 「Courage, Equality, Determination, Inspiration」の 4 部門に分けて、開催された。

6. パートナーズ教育プログラム「Partners' educational programs」

組織委員会のほかに、政府と連邦自治体は The Presidents Games, The Olympics begin at School, 等のプログラムを開催している。また、ロシアスポーツ省との協力において、オリンピックとパラリンピックは写真コンテスト「Get involved in Sport!」を開催した。

クラスノダール地域の文部科学省との連携で、ソチ 2014 教育プログラムは、「The All-Kuban Olympic school hour», 「The All-Kuban Spartakiad "Sporting hopes for Kuban", and the regional "Faster, Higher, Stronger!"を含むこととなった。

ボランティアに関するオリンピック教育に関しては、14 以上の地域から、26 のボランティアセンターで開催され、1500 レッスンが計 57,000 の人々に受講された。

文責: 大林 太郎 (筑波大学)